

## 第 3 部

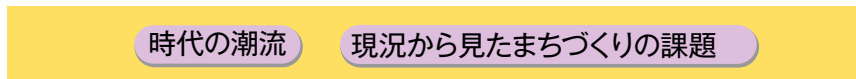
# 基本構想

## 第3部

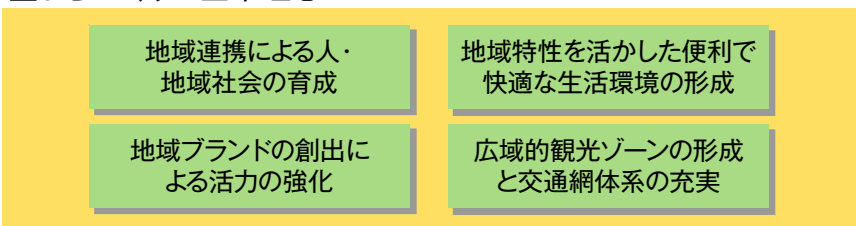
第3部では、第2部で整理した「発展課題」をふまえ、まちづくりの基本理念、将来都市像、まちづくりの基本方針を示します。

また、将来像実現のためのまちづくり戦略として、3つのテーマを掲げます。

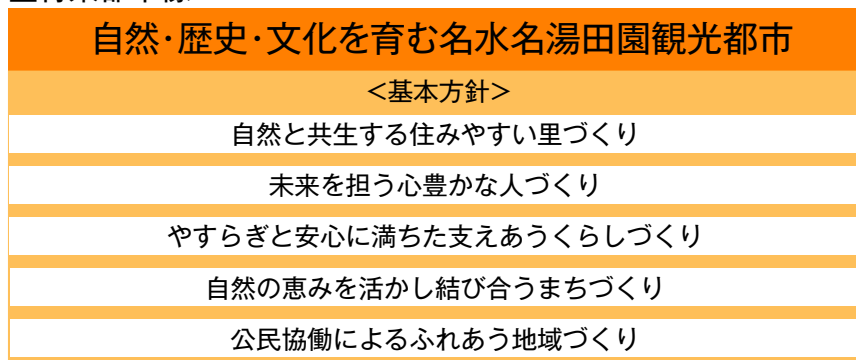
### ■発展課題



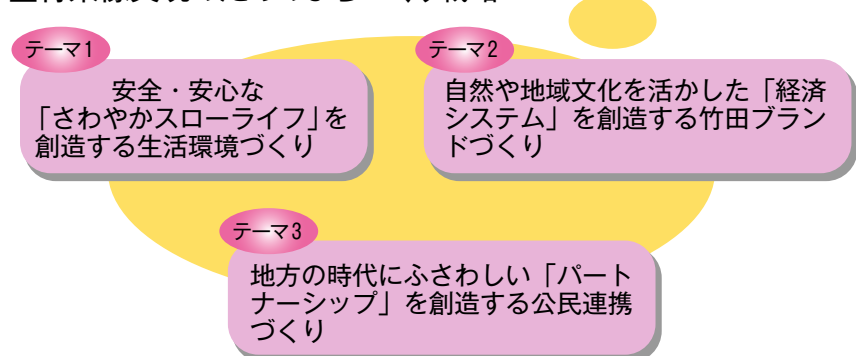
### ■まちづくりの基本理念



### ■将来都市像



### ■将来像実現のためのまちづくり戦略



## 第1章 まちづくりの基本理念

合併前の旧1市3町では、各々の市町が総合計画に基づいた種々の施策を実施し現在のまちの姿を築き上げてきました。21世紀を迎えた今、めまぐるしく変化する社会情勢への対応とともに新生「竹田市」が誕生し、この合併を機に調和のとれたまちづくりを進め、真に豊かな暮らしを実現できる社会を構築することが求められています。

真に豊かな暮らしとは、より美しいまちでより自分らしく生きていくことであり、ひたすらに大量生産・大量消費をくりかえしてきた社会も価値観の変化とともに人と人との支え合いや安全・安心を幸せの実現に欠かせないものとして認識するようになりました。

今後、本市においては、比類なき豊かな大自然を有する美しいまちを愛し、人と人とのつながりを大切にしていだれもが笑顔で暮らすことができるまちづくりを進めていきます。

以下に、まちづくりの基本理念を示します。

### (1) 地域連携による人・地域社会の育成

合併により行政の規模が拡大したことを有効に活用しスケールメリット※とするには、行政のしくみの再編成が必要です。今後、より充実した行政サービスの実現を目指し、行政と市民との協働によってより一層生活実態に近い視点での地域運営を行います。

また、今後は行政と市民との役割分担による協働のまちづくりによって本市の発展を目指していきます。そのために、職員が積極的に地域へ出向き、行政と市民の協働体制を確立するとともに、以前からの地域社会の結びつきを尊重しつつ、市民自身がまちづくりに積極的に参加できる自治の体制づくりと市民活動を支援します。

### (2) 地域特性を活かした便利で快適な生活環境の形成

安全性に優れた便利で快適な生活基盤は、豊かな生活のよりどころとなるものです。また、人は健康で安定した生活が保障されてこそ、充実した生活をおくることができます。

本市では、生活基盤整備を推進し居住環境の向上を図るとともに、人々が心身ともに健やかに暮らせるよう、市民のニーズに合った福祉サービスを充実させます。また、人と人との支え合いによって安らかで思いやりに満ちたまちを実現します。

※スケールメリット：規模を大きくすることで得られる利益。

### （３）地域ブランドの創出による活力の強化

都市間競争が激しさを増す中で、独自の個性を発揮し魅力的なまちづくりを実現できるまちには、人々が集まり、活力あふれるまちとして発展することが可能です。

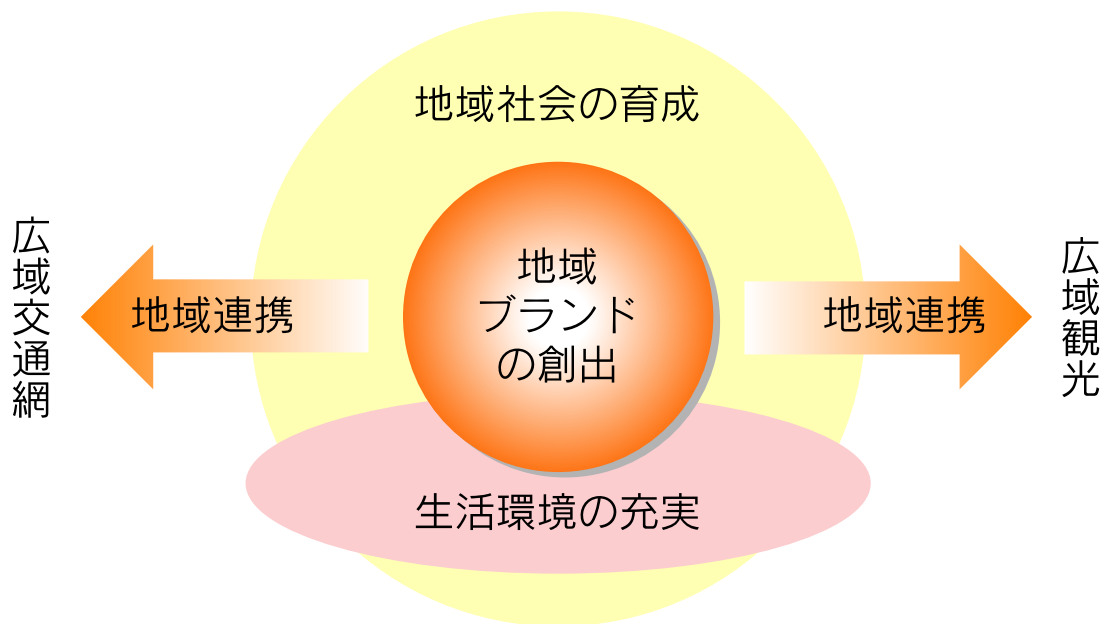
本市においても、交流人口の拡大と定住促進、雇用の創出を目的として、市民、企業、行政が一体となって新産業力の創出に取り組む必要があります。そして、本市の地域資源を地域経営という視点から整理し、あらゆる視点から地域ブランド創出のための戦略的なプロジェクトを推進するとともに、プロジェクト推進の仕組みを充実させ、自由な発想による地域振興を進めていきます。

### （４）広域的観光ゾーンの形成と交通網体系の充実

本市は、合併を機にくじゅう連山や祖母山等の名だたる名峰や名水、温泉、さらには広大な大地や高原など、他の地域には見られない素晴らしい自然環境を擁することとなりました。

この大自然という貴重な観光資源を十分に活かし本市の魅力を最大限に引き出すために、広域的な観光ゾーンを形成します。また、周遊性を高めるための道路網をはじめとした交通ネットワークの充実、さらには全国への情報発信を積極的に行い、観光振興による地域活性化を推進します。

■ “まちづくりの基本理念” のイメージ



## 第2章 まちづくりの将来像

### 2-1 将来像

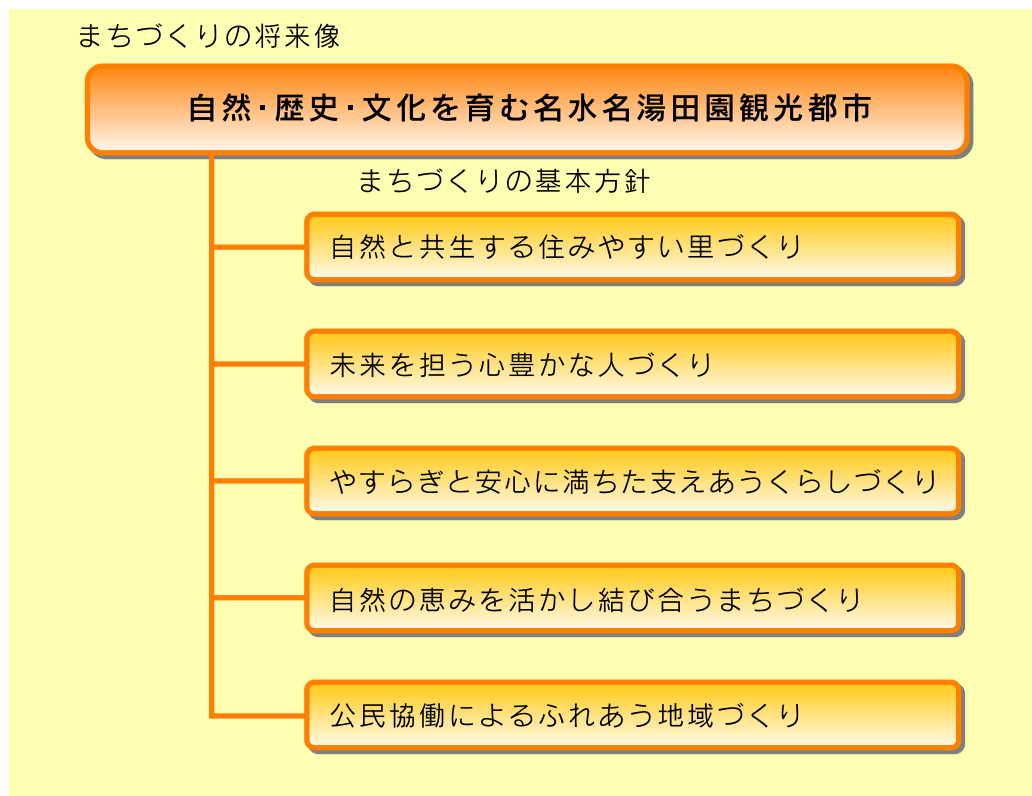
本市が誇る豊かで多様な自然、歴史、文化は、本市が発展を続けるために欠くことのできない、そして最大限に活用すべき貴重な地域資源です。

これらの地域資源は、市民一人ひとりの手によって守り、積み重ね、育まれることによって、本市の発展的なまちづくりにおいて重要な役割を果たします。

自然と共生する住環境の整ったまち、歴史・文化の香りに満ちた心豊かな生活、健康で安らかな日常が保障され、皆が生き活きと働くことのできるまち、にぎやかに行き交う人々。これが本市の将来の姿です。

そして、この将来の姿を実現するためには、行政と市民のパートナーシップ※によって、貴重な地域資源が今まで以上に本市の地域力の源となるよう活用・連携を図る、つまり“自然・歴史・文化”を“育ん”でいかなければなりません。そうすることによって、本市は「名水名湯田園観光都市」として新たな発展の道を歩んでいくことができるのです。

そこで、本市のまちづくりの将来像を以下のように掲げます。また、この将来像をふまえて、まちづくりの基本方針を次のように定めます。



※パートナーシップ：友好的な協力関係。

### （１）自然と共生する住みやすい里づくり

名水・名湯をはじめ、国立、国定公園に名を連ねる雄大で豊かな自然環境を市民共通の貴重な財産として、その保全に努めます。また、上下水道整備や浄化槽市町村整備推進事業等への取り組み、循環型社会の構築など環境にやさしいまちづくりを進めます。

一方で、防災・防犯などの安全対策を積極的に進め、市民が安心して笑顔で暮らすことのできるまちを目指します。

さらに、緊急の課題として地域高規格道路「中九州横断道路」の本市での早期着工を国や県に強く働きかけるとともに、国道や県道、市道等の市内の道路網を有機的に結ぶ道路ネットワークの形成を進めていきます。

### （２）未来を担う心豊かな人づくり

地域づくりにおいて人づくりは重要な要素です。本市の将来を担う若い力をより充実した環境で育むことができるよう、学校教育の充実と教育環境の整備を図るとともに、あらゆる年代の人が学ぶことのできる生涯学習、社会教育、市民スポーツの振興を推進します。

また、これまでの各地域の歴史の中で育んできた個性を互いに尊重し、文化財の保存・活用や文化・芸術活動の支援によって各地域の歴史と人が融合した新しい竹田市の文化を創造します。

### （３）やすらぎと安心に満ちた支えあうくらしづくり

急速に進行する少子高齢化に対応するために、高齢者福祉の充実とともに、多方面から子育て支援を推進します。また、保健医療サービスや社会保障の充実などに加え、疾病予防や早期発見、介護予防に取り組み、市民の健康づくり運動を推進します。これらに加えて、市民がお互いに助け合う地域福祉の実現のための体制づくりに取り組むことにより、総合的な保健・医療・福祉施策を展開します。

### （４）自然の恵みを活かし結び合うまちづくり

本市の基幹産業である農林畜産業については、生産振興体制を整え、生産物のブランド化を図り、高付加価値の産地・産品づくりを推進していきます。また集落営農を促進し、担い手の育成と経営感覚に優れた農業者の育成に努めます。

一方、商業については新たな商業形態の創出などにより活性化をはかり、工業においては優良企業の誘致に努めるなど、賑わいと活気のあるまちを目指します。

観光については、全国に向けての情報発信と本市そのもののブランド化に加え、もてなしの心の醸成に努めることで訪れる人がまた来たいと思うまちづくりを進めます。

今後は、異業種間での連携や市民・企業・行政の協働体制により新たな産業の創出も期待されます。

### (5) 公民協働によるふれあう地域づくり

行政組織のスリム化や適正な人員配置、既存の公共施設の有効活用などにより、行財政の効率化、重点化を図ります。また、財政運営の健全化は重要課題の一つであり、長期的な視野に立った対応を進めていきます。

今後とも一定の行政サービスを維持するために、市民と行政との役割分担を進め、地域社会の育成を図り、自治の仕組みづくりに取り組みます。

また市民一人ひとりの人権が尊重され生き活きと暮らすことができる社会を形成します。

このほか、姉妹都市や友好都市を中心とした交流事業の推進を図ります。

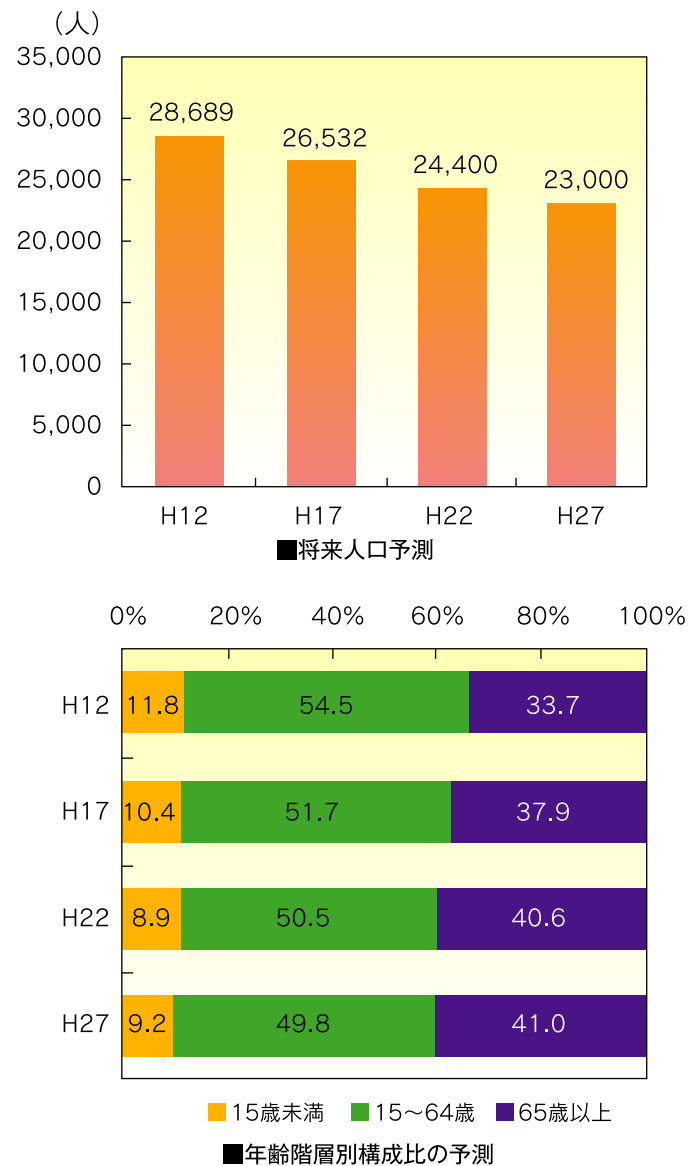
## 2-2 まちづくりの基本指標

### (1) 人口

#### ①地域内居住人口

本市の人口は、昭和55年の約36,011人から平成12年の28,689人と20年間で約7,300人が減少しました。平成17年10月1日に実施された国勢調査の速報人口は26,532人で、5年間でさらに2,000人減少しており、全国的な人口減少の流れを受けて、今後も人口の減少は続くものと予想されます。

将来人口をコーホート要因法\*により推計すると、平成27年には概ね21,700人まで減少すると予想されています。全国規模の人口減少時代に突入した大変な時ではありますが、定住施策や産業振興施策の効果的な実施により、人口減少率を緩やかにしていき、その結果としての平成27年の将来人口を約23,000人に設定します。



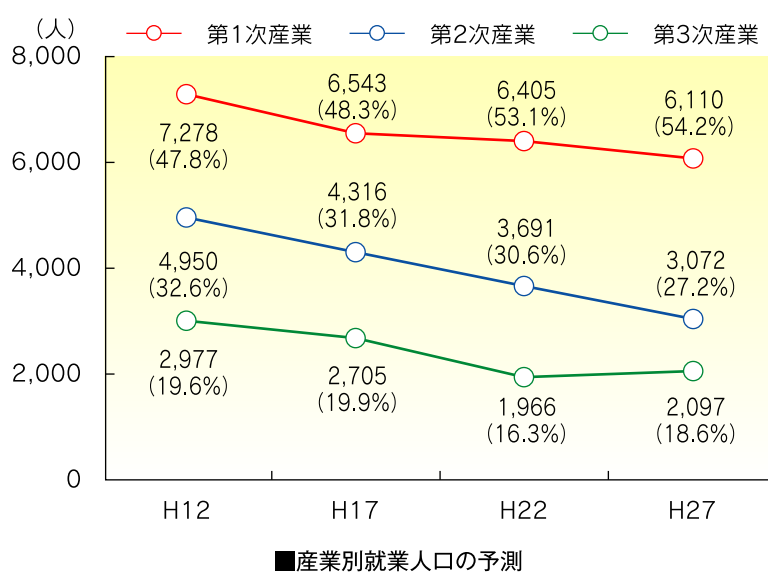
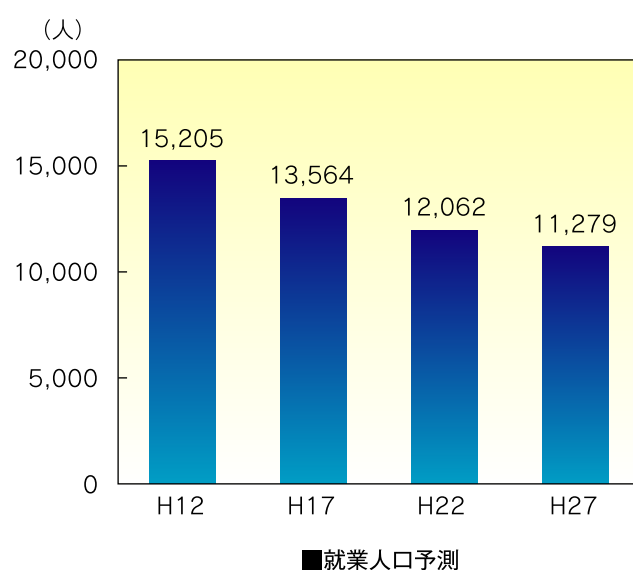
※コーホート要因法：人口変動の要因を出生率(女性が子供を産む確立)、生存率(男女が生存する確率)、移動率(男女が移動する確立)に分離して取り扱い、それぞれの要因を積み上げることによって将来人口を推計する方法。コーホートは「集団」を意味する。



## ②産業別就業人口

将来の推計人口を基にして就業人口を予測します。地域内居住人口の趨勢を受け、総就業人口も減少し、平成27年には11,279人となることが予想されます。

産業別就業人口の予測では、いずれの産業も減少する見通しであり、中でも、第1次産業従事者の減少率が最も多いと予想されます。

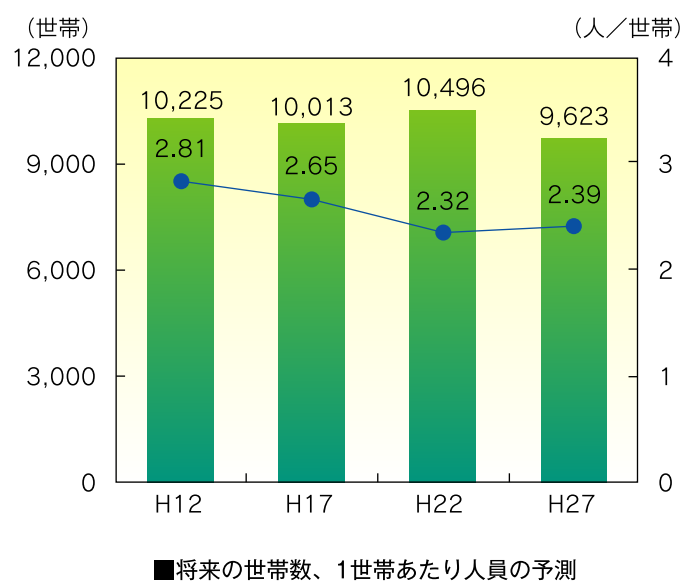


## (2) 世帯

将来の推計人口を基に世帯数を推計します。

世帯数は停滞～減少の傾向が見込まれ、平成27年には9,623世帯とすることが予想されます。

1世帯あたりの世帯人員については、減少～停滞傾向となり、平成27年で2.39(人／世帯)とすることが予想されます。



## ■人口と世帯の見通し

| 区分                 | H12    | H17    | H22    | H27    |
|--------------------|--------|--------|--------|--------|
| 人口（人）              | 28,689 | 26,532 | 24,400 | 23,000 |
| 世帯数（世帯）            | 10,225 | 10,013 | 10,496 | 9,623  |
| 1世帯あたり人員<br>（人／世帯） | 2.81   | 2.65   | 2.32   | 2.39   |

## ■年齢別3階層人口の見通し

| 区分      | H12    | H17    | H22    | H27    |
|---------|--------|--------|--------|--------|
| 総人口（人）  | 28,689 | 26,532 | 24,400 | 23,000 |
| 15歳未満   | 3,399  | 2,749  | 2,179  | 2,109  |
| （％）     | 11.8   | 10.4   | 8.9    | 9.2    |
| 15歳～64歳 | 15,623 | 13,733 | 12,323 | 11,459 |
| （％）     | 54.5   | 51.7   | 50.5   | 49.8   |
| 65歳以上   | 9,667  | 10,050 | 9,898  | 9,432  |
| （％）     | 33.7   | 37.9   | 40.6   | 41.0   |

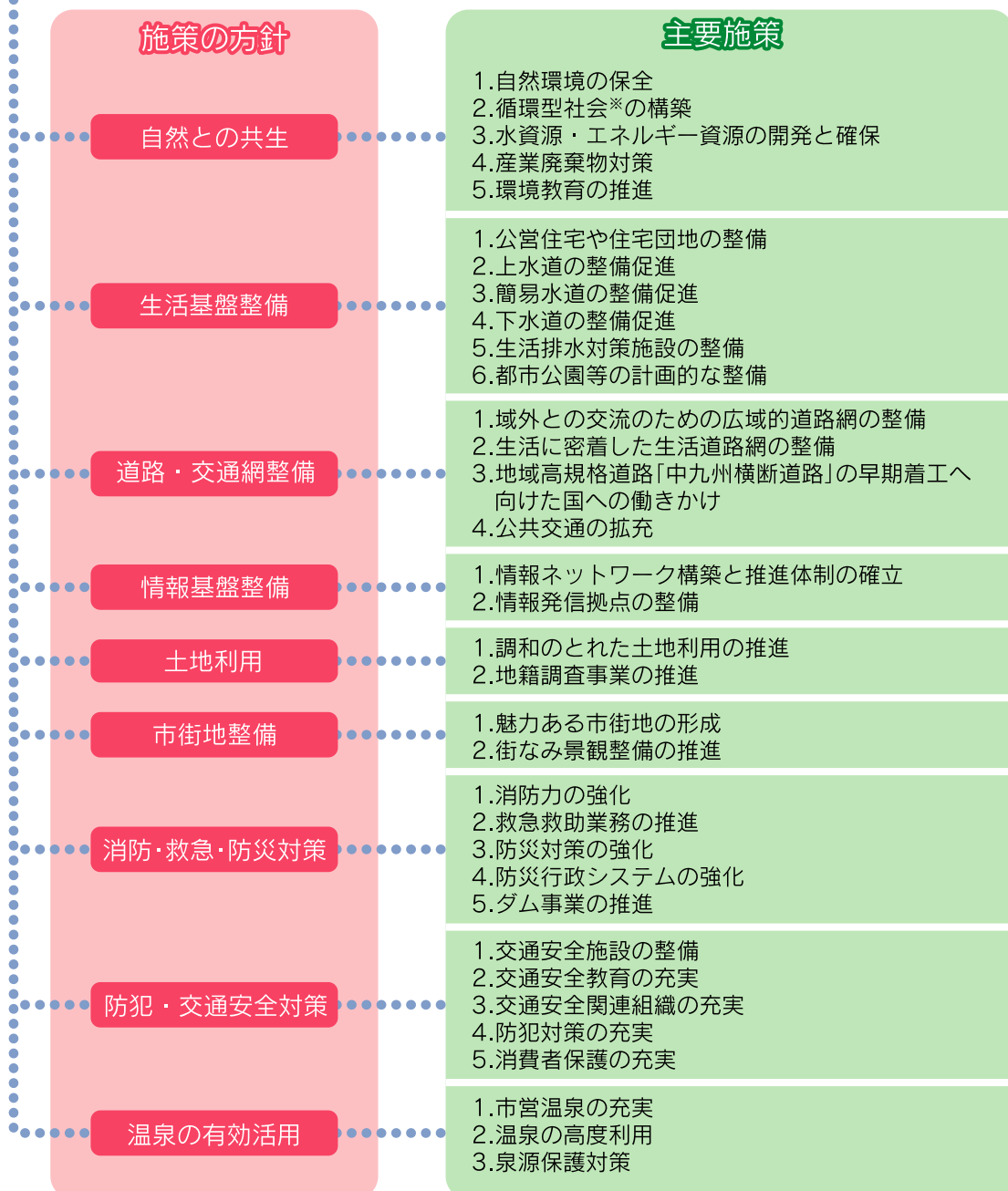
## ■産業別就業者人口の見通し

| 区分       | H12    | H17    | H22    | H27    |
|----------|--------|--------|--------|--------|
| 全就業者（人）  | 15,205 | 13,564 | 12,062 | 11,279 |
| 第1次産業就業者 | 4,950  | 4,316  | 3,691  | 3,072  |
| （％）      | 32.6   | 31.8   | 30.6   | 27.2   |
| 第2次産業就業者 | 2,977  | 2,705  | 1,966  | 2,097  |
| （％）      | 19.6   | 19.9   | 16.3   | 18.6   |
| 第3次産業就業者 | 7,278  | 6,543  | 6,405  | 6,110  |
| （％）      | 47.8   | 48.3   | 53.1   | 54.2   |

## 第3章 施策の大綱

将来都市像  
自然・歴史・文化を育む名水名湯田園観光都市

## 自然と共生する住みやすい里づくり



※循環型社会：廃棄物等の発生を抑制して、廃棄物等のうち有用な物を循環資源として利用し、適正な廃棄物の処理をすることで、天然資源の消費を抑制し、環境への負荷ができる限り低減される社会のこと。

## 未来を担う心豊かな人づくり

## 施策の方針

生涯学習の充実

学校教育の充実

社会教育の充実

歴史や文化の保全・継承

芸術文化の振興

スポーツ・レクリエーション活動の支援

## 主要施策

- 1.生涯学習の充実と体系化
- 2.生涯学習推進体制の確立
- 3.図書館のネットワーク
- 4.その他教育学習施設の利用拡大

- 1.幼児教育の充実
- 2.義務教育の充実
- 3.学校給食の充実
- 4.学校規模の適正化と特色ある学校づくり
- 5.専門学校など教育機関の誘致

- 1.社会教育推進体制の整備
- 2.社会教育機会の充実
- 3.社会教育関係団体の育成
- 4.公民館活動の推進

- 1.文化遺産の保護と継承
- 2.郷土の歴史や資料館、文化施設のネットワーク化

- 1.文化・芸術活動の支援
- 2.文化交流と情報発信

- 1.スポーツ・レクリエーション活動の拠点づくりと連携
- 2.市民スポーツの振興と交流機会の拡大
- 3.豊かな自然環境とふれあい交流活動の充実
- 4.国民体育大会の開催

## やすらぎと安心に満ちた支えあう暮らしづくり

## 施策の方針

保健・医療サービスの充実

高齢者支援施策の充実

障がい者支援の充実

社会保障の充実

子育て支援の充実

地域福祉活動の強化

健康づくりの推進

## 主要施策

- 1.医療体制の整備・充実の地域間のネットワーク化
- 2.救急医療体制の充実
- 3.二次救急医療の質的向上

- 1.高齢者の生きがい対策の促進と健康づくりの推進
- 2.福祉施策の拡充
- 3.地域支援事業※の効果的な推進
- 4.介護保険制度の円滑かつ安定的な運営

- 1.障害者自立支援法に基づく福祉サービスの充実
- 2.障害者保健福祉サービスの充実
- 3.地域における自立支援

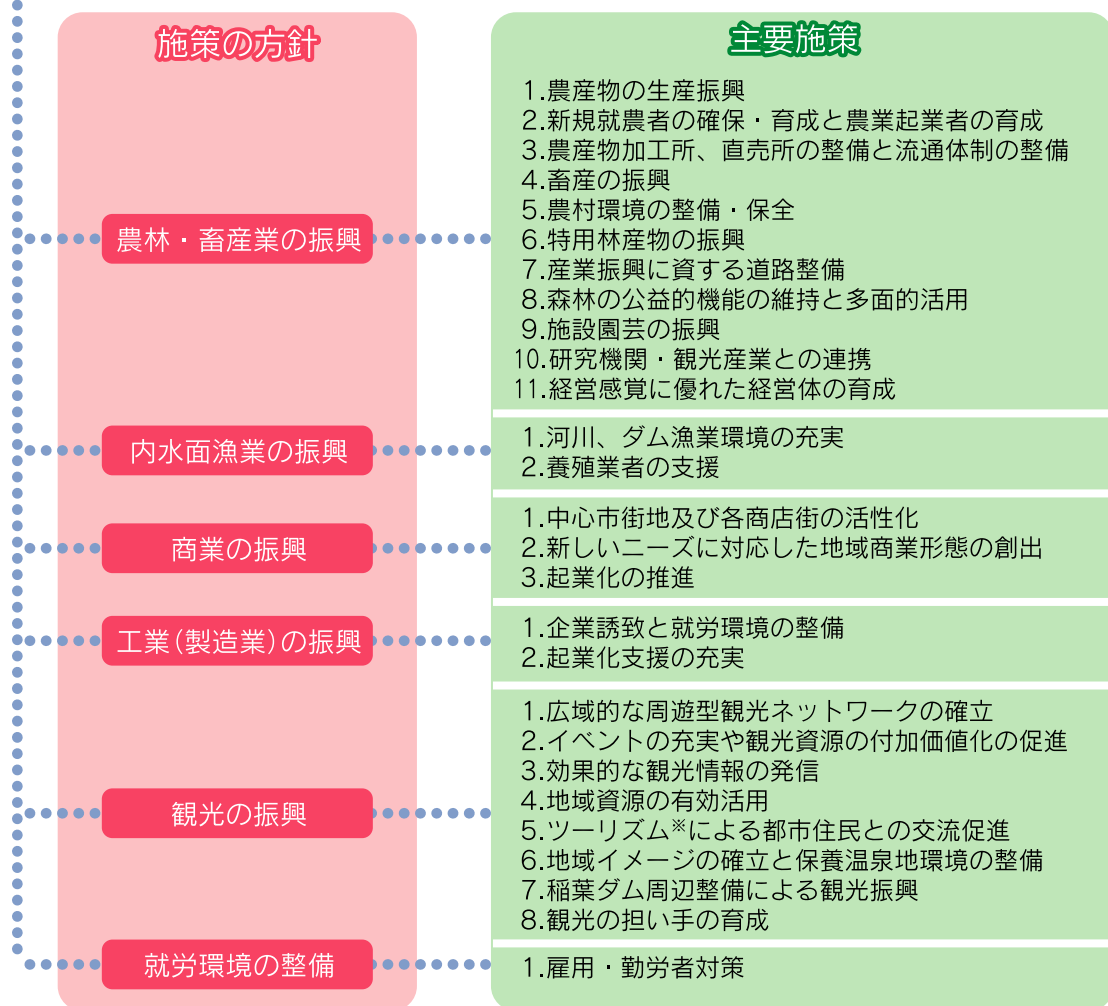
- 1.低所得者福祉の充実
- 2.国民健康保険の充実
- 3.国民年金の充実

- 1.保育サービスの充実
- 2.地域ぐるみの子育て支援
- 3.子育てと仕事の両立支援
- 4.児童・母子(父子)福祉の充実
- 5.保健・医療・福祉、教育の連携

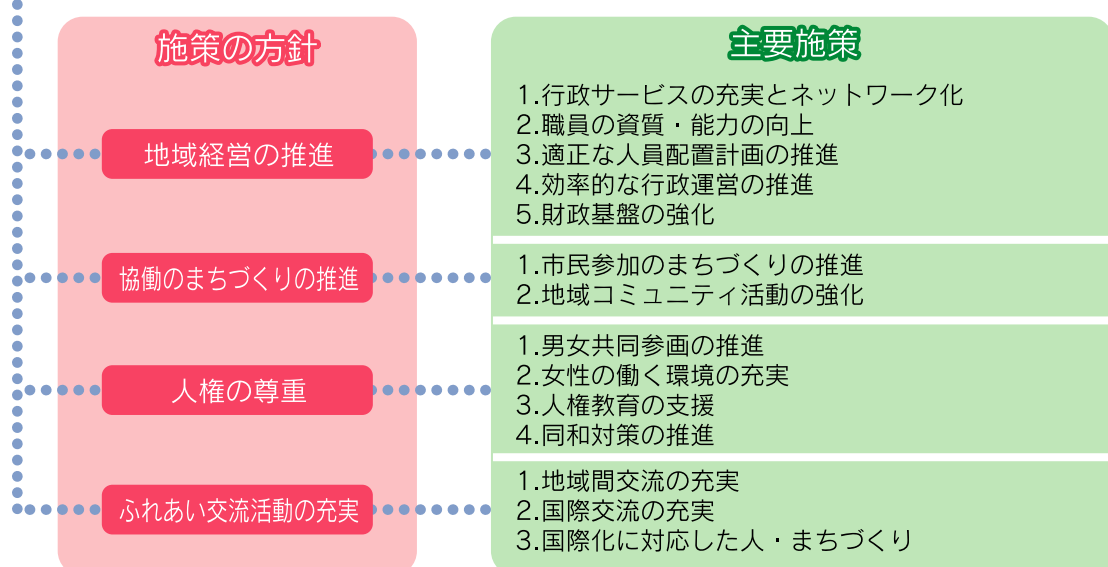
- 1.社会福祉協議会の機能強化
- 2.地域福祉拠点の整備
- 3.福祉ボランティアの育成
- 4.地域福祉推進体制の確立と地域ケアネットワークの形成

- 1.各種健康づくり事業による予防活動の充実
- 2.健康づくり組織の育成と環境整備

## 自然の恵みを活かし結び合うまちづくり



## 公民協働によるふれあう地域づくり



※地域支援事業：介護保険の被保険者が要介護状態となることを予防するとともに、要介護状態になった場合においても、可能な限り、地域において自立した日常生活を営むことができるよう支援するため行う事業のこと。

※ツーリズム：多様な地域資源を対象にした「交流」「体験」「滞在」を核にした観光。

## 第4章 将来像実現のためのまちづくり戦略

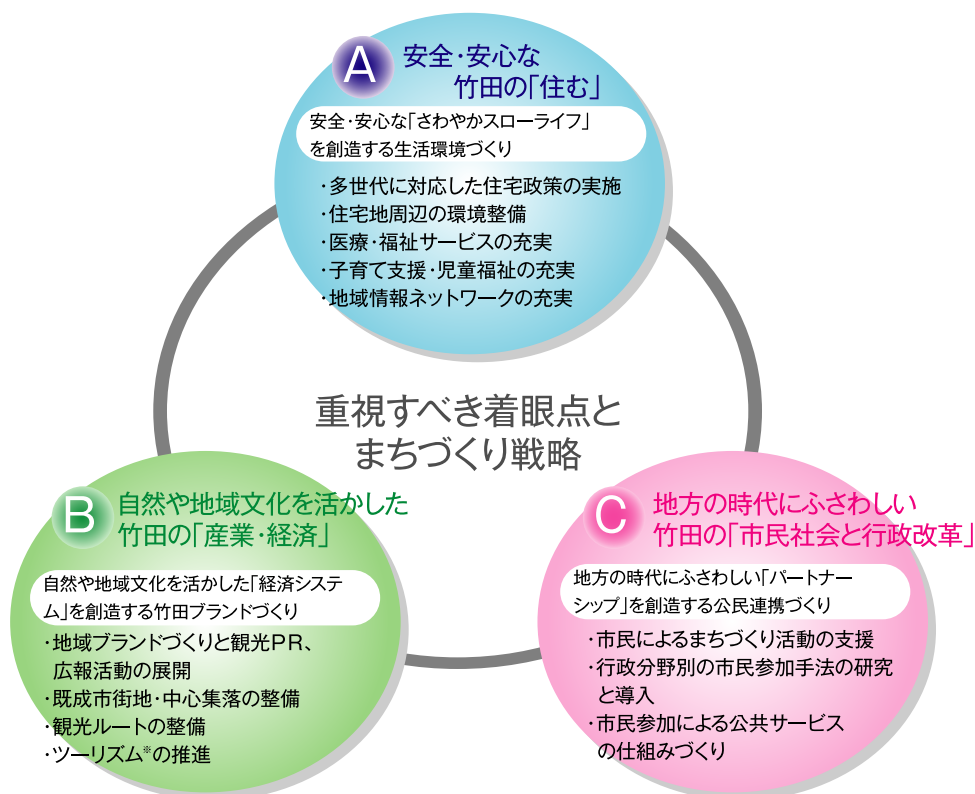
### 4-1 まちづくり戦略の意義と必要性

これからのまちづくりについては、時代の潮流や現況のまちづくり課題を踏まえ、本市と本市をとりまく環境がこれまでどのように変化してきたか、そしてその変化により、将来へ向けてどのような展望が開かれつつあるかについての的確に見据える必要があります。

その上で、将来展望をもとに、本市の生活文化や様々な地域資源を結集することでそれぞれのポテンシャル※を最大限に活かし、グローバル化※や情報化の波に翻弄されることのない強い地域社会を築くための発展戦略を立案することが重要です。

本計画では、市民や来訪者の方々に、“安全・安心な竹田の「住む」”に触れていただきたい、“自然や地域文化を活かした竹田の「産業・経済」”があることを見ていただきたい、更には、“地方の時代にふさわしい竹田の「市民社会と行政改革」”を感じていただきたい、という発想から、次に掲げる3つのまちづくり戦略を組み立てます。

- A. 安全・安心な「さわやかスローライフ※」を創造する生活環境づくり
- B. 自然や地域文化を活かした「経済システム」を創造する竹田ブランドづくり
- C. 地方の時代にふさわしい「パートナーシップ※」を創造する公民連携づくり



※ポテンシャル：可能性や将来性、あるいは存在能力のこと。

※グローバル化：人々の行動や経済活動が国の枠組みを超えて地球規模で行われること。

※スローライフ：スピードや効率を重視した現代社会とは対照的に、ゆったりとマイペースで人生を楽しもうというライフスタイル。

※パートナーシップ：友好的な協力関係。

## ■まちづくり戦略の意義と必要性

- 本市は、市域が中山間地域に位置することから、産業立地や商業・医療施設等の都市機能や高速交通体系などの物理的な環境面は、中枢・中核都市等に比べると恵まれた状況ではありません。
- しかしながら、本市には、近年の都市社会では低下しつつある地域社会としてのコミュニティが確実に継承されています。また、歴史的・文化的な資源も多数存在するとともに、自然環境の豊かさは多くの人々に広く知られています。これらを融合した地域社会の総体が、本市の生活文化として形成されています。
- このような豊かな生活文化は、少子高齢化、グローバル化※、情報化といった環境変化の著しい現代の都市社会においても、中山間地域と同様に非常に重要な要素といえます。
- 本計画では、本市特有の生活文化を最大限に活用することを前提として、市民や来訪者の方々に、まず、“安全・安心な竹田の「住む」”に触れていただきたい、そして、“活力の基礎となる竹田の「産業・経済」”を見ていただきたい、更には、“地方の時代にふさわしい竹田の「パートナーシップ※」”を感じていただきたい、という発想のもとにまちづくり戦略を組み立てます。
- 本章で掲げるまちづくり戦略は、このような3つの着眼点から地域の発展シナリオを描き、これに沿って予定している個別事業の組合せや取り組みの順番を工夫し、より効率的・効果的な公共事業の展開を目指すものです。
- 各行政分野の基礎的な事業は、従来通り確実に進めていく必要がありますが、その一方で、ある一定の共通目的やシナリオの基に関連する個別の事業を集約し、効率的な効果の発現に努めることは、まちづくりに取り組む上で極めて重要な姿勢と考えます。
- このようにして組立てられた事業パッケージや実施プログラムを、竹田らしいまちづくり戦略として位置づけることとします。
- 竹田らしいまちづくり戦略は、決して大規模な開発事業や斬新な制度改革を目玉事業とするものではなく、合併によりイノベーション※の条件が整った新生竹田市において、将来のまちづくりをどんな観点に立ち、何からはじめるか、といった着眼点とシナリオを見定めることに重点を置いたものです。

※グローバル化：人々の行動や経済活動が国の枠組みを超えて地球規模で行われること。

※パートナーシップ：友好的な協力関係。

※イノベーション：経済成長の原動力となる革新。生産技術の革新、資源の開発、新消費財の導入、特定産業の構造の再組織などをさすきわめて広義な概念。



## 4-2 将来像実現のためのまちづくり戦略

### (A) 安全・安心な「さわやかスローライフ※」を創造する生活環境づくり

**市民が“住む・生活する”上で不可欠な生活要素をモチーフとしながら、竹田らしい“安全・安心な「さわやかスローライフ※」を創造する生活環境づくり”に取り組みます。**

本市は、大分県の南西部に位置し、東は豊後大野市と大分市、西は熊本県、南は宮崎県、北は九重町と由布市に接しています。

地形は周囲を山々に囲まれた標高250mの盆地から標高900m程度の高原地帯を経て、標高1,700m級の山が連なる山岳地帯まで起伏に富んでいます。西には阿蘇の外輪山から続く台地が広がり、大規模な農業地帯が形成されており、北はくじゅう連山の南麓に広がる雄大な高原地帯となっています。

本市の住環境は、このような豊かな自然に育まれたさわやかな条件を有していますが、人口減少や少子高齢化の進展は、地域社会を維持していく上で深刻な社会問題の一つとなっています。

この対策として公営住宅の供給に際して多世代のニーズに対応した間取りの提供やユニバーサルデザイン※の導入を進めるとともに、情報ネットワークを活用した空家対策の充実を図ることが必要です。あわせて、主要な住宅地周辺の環境整備や交通・通信基盤の整備を進めるとともに、就業の場や医療施設、生活利便施設などへアクセスする生活を支える道路、情報基盤やICT※の利用環境を整備していくことも重要です。さらには、人口減少の構造には、少子化や人口流出などの問題が根底にあり、“思いやりのある子供が育つまち”“安心して生み育てられるまち”づくりを具体的に進めるため、家庭、保育所、幼稚園、学校、企業、行政が一体となって、地域社会全体の責任として子供やその家庭を支援していくことが必要です。

このため、本市のまちづくり戦略として、良好な環境や人のふれあいを活かした生活環境づくりに関する取り組みを結集し、「さわやかスローライフ※」創造プロジェクトとして推進することとします。

※スローライフ：スピードや効率を重視した現代社会とは対照的に、ゆったりとマイペースで人生を楽しもうというライフスタイル。

※ユニバーサルデザイン：全ての人のためのデザイン（構想、計画、設計）。年齢、性別、身体、言語など、人々が持つ様々な特性や違いを超えて、はじめからできるだけ全ての人が利用しやすい、全ての人に配慮した環境、建物、製品等のデザインをしていこうという考え方。

※ICT：（Information and Communication Technology）情報通信技術。情報（Information）や通信（Communication）に関する技術の総称。日本では同様の言葉としてIT（Information Technology：情報技術）の方が普及しているが、国際的にはICTの方が通りがよい。総務省の「IT政策大綱」が2004年から「ICT政策大綱」に名称を変更するなど、日本でも定着しつつある。

**A****安全・安心な「さわやかスローライフ※」を  
創造する生活環境づくり****プロジェクトA1 多世代に対応した住宅政策の実施** .....

多様な世代の利用者ニーズに合った住宅整備に取り組んでいきます。

**プロジェクトA2 住宅地周辺の環境整備** .....

定住の受皿として、まちなみにも配慮し、本市のイメージアップにつながるような良好な住宅地の環境整備を進めていきます。

**プロジェクトA3 医療・福祉サービスの充実** .....

医療サービスの充実を図り、子どもから高齢者まで市民一人ひとりが、生き生きとして健やかに安心して暮らせるまちづくりを進めます。

**プロジェクトA4 子育て支援・児童福祉の充実** .....

地域の人材活用、教職員と保護者や地域住民との連携等を進め、学校、地域、家庭における子育て支援、児童福祉の充実を図っていきます。

**プロジェクトA5 地域情報ネットワークの充実** .....

ケーブルテレビ※をはじめとする高度な情報通信基盤の整備を促進するとともに、子どもから高齢者まで誰もが活用できる生活情報や地域情報の提供に努めます。

※スローライフ：スピードや効率を重視した現代社会とは対照的に、ゆったりとマイペースで人生を楽しもうというライフスタイル。

※ケーブルテレビ：アンテナを用いずに、映像を同軸ケーブル・光ファイバーケーブルを用いて伝送する有線のテレビ。双方向通信が可能。回線は電話・インターネットにも用いられる。有線テレビ。

## (B) 自然や地域文化を活かした「経済システム」を創造する竹田ブランドづくり

**豊かな自然環境や奥深い歴史・文化等の地域資源をより一層アピールするとともに、地域資源を誇りに思うひとづくりを展開し、竹田らしい“自然環境や地域文化を活かした「経済システム」を充実する竹田ブランドづくり”を地域ぐるみで進めていきます。**

本市は、広大肥沃な大地や豊かな草原、夏季冷涼な気象条件を活かした農業と、自然だけでなく歴史や文化にもふれ合える観光が盛んです。本市は、農業や観光業の面では著名な資源を有しており、ここを訪れた人々が、健全で文化的な印象を持ち帰り、リピーターとなっていくという構造は、観光客数や観光消費額の伸びに現れています。

その一方、近年における本市の商業や工業は低調で、中心市街地の空き店舗や郊外の空家などは増加の一途をたどり、将来的な地域社会の活力の低下が危惧されています。これらのことから、地域の特産品や自然的環境を中心とする地域ブランド及び観光産業が他の産業に対して波及していく仕組みまでは形成されていないと言えます。また、合併により共有化が進んだ本市の貴重な地域資源が、それぞれの単体としての広報活動にとどまっている状況にあります。

これへの対策としては、より複合的な広報活動を展開するとともに、市内と市域外とをつなぐ広域的な交通基盤の整備や観光ルートの整備を図り、新市としての合理的な体制を生かした観光地の相互連携に努めることが必要です。また、本市の農作物や加工品などを再確認するとともに、市内企業や商店との連携や異業種の企業とのタイアップを図る中で地域ブランドとなるものの発掘と開発を進めていくことが必要です。併せて、歴史的建物や史跡等の伝統と街並みや食等の現在の生活文化との間で、来訪者と市民が互いに魅力的だと感じる部分を共有できる環境づくりも重要なことです。

また、高原地帯を中心に美しい緑豊かな自然景観やさわやかな気候条件を活かした観光施設整備が進んでいるところですが、これらと地域の保健・福祉・医療活動の融合を図り、総合的な保養基地として機能充実を進めることや、観光・農業関係者だけでなく地域ぐるみによるツーリズム※の機能充実を進めることは、多方面への経済波及の仕掛けづくりとして不可欠です。

このため、本市のまちづくり戦略として、高い評価を受けている地域資源とそれに関わる様々な経済的・社会的活動を結集し、「経済システム」充実プロジェクトとして推進することとします。

※ツーリズム：多様な地域資源を対象にした「交流」「体験」「滞在」を核にした観光。

**B****自然や地域文化を生かした「経済システム」を創造する竹田ブランドづくり****プロジェクトB1 地域ブランドづくりと観光PR、広報活動の展開・・・**

地域連携や異業種間交流、産業間連携を図り、地域ブランドづくりを進めます。また、さまざまな観光、PR、地域の広報活動の展開に取り組んでいきます。

**プロジェクトB2 既成市街地・中心集落の整備・・・・・・・・・・**

恵まれた自然環境、歴史的環境の保全を基本として、史跡・伝統と生活文化が融合したまちなみづくりを進めます。

**プロジェクトB3 観光ルートの整備・・・・・・・・・・**

交流人口の増加を図る観光ルートの整備を進めるため、広域的な交通基盤の整備促進や関係機関への要請など、総合的に取り組んでいきます。

**プロジェクトB4 ツーリズム※の充実・・・・・・・・・・**

観光農園※、観光牧場の設置、農家や商家の連携等による都市住民の受入れ体制整備等、地域が一体となった独自の滞在環境づくりを進めます。

※ツーリズム：多様な地域資源を対象にした「交流」「体験」「滞在」を核にした観光。

※観光農園：果実やイチゴのもぎとりなど、レクリエーションのため客に開放する農園。

## (C) 地方の時代にふさわしい「パートナーシップ※」を創造する公民連携づくり

「住民自治」による成熟した社会を構築し、さらにより高度な地域社会を目指して、竹田らしい“地方の時代にふさわしい「パートナーシップ※」を創造する公民連携づくり”を積極的に展開していきます。

地方分権社会※が目指すのは、「地方にできることは地方に」の観点から、国と地方の役割分担を明確にし、地方の自己決定範囲の拡大と自立性を高めることであり、そのためには、地方の自由度の拡大、自主・自立的に政策をつくる住民自治の拡充、自己責任が伴った効率的行財政運営に向けた改革が必要です。

また、市民参加の分野においては、これまでの情報公開、意見聴取、協働作業、市民団体への支援等に加えて、官民の人事交流を取り入れる動きもあります。つまり、行政のスリム化、官から民への考え方に加え、行政、企業、市民との間の「連携モデル、ネットワークの再構築」に焦点をおき、「公共サービスの質的改善」を実現する取り組みへと変革しつつあります。

本市においても、合併と同時に地域審議会を設置するとともに、機構改革や行財政改革に積極的に取り組むなど、市民との情報の共有化や行政のスリム化に努めているところです。

今後は、従来の取り組みをさらに発展させ、市民の行政への積極的な関与と行政改革の推進を相互に連動した仕組みのもとで展開し、地域社会の高度化へ確実につなげていくことが大切です。つまり、地域活性化のために官民の役割分担について制度面からの見直しを進め、官と民が共に考え共に行動するパートナーシップ※を形成していくことが地方の時代に生きる道です。まずは、市民による自主的なまちづくり活動の状況についての的確に把握するとともに、行政事務との関わりが深いものについては支援施策を展開することが必要です。あわせて、行政分野ごとに市民参加手法の研究を行い、制度としての有効性について検討することが重要です。さらには、横断的な仕組みとして柔軟に機能するようパートナーシップ※という観点から公共サービスの仕組みづくりを進めることも不可欠です。

このため、本市のまちづくり戦略として、官と民が共に考え、共に行動する高度な「パートナーシップ※」の二人三脚体制プロジェクトを立ち上げることにします。

※パートナーシップ：友好的な協力関係。

※地方分権社会：中央省庁に集中している権限を地方に分散させるとともに、国と地方の役割分担を明確にすること。



## 地方の時代にふさわしい「パートナーシップ※」を創造する公民連携づくり

### プロジェクトC1 市民によるまちづくり活動の支援・・・・・・・・

市民の自発的で多彩なまちづくり活動を把握し、活動の支援を図るなど、いきいきとした生活場面の創出に努めます。

### プロジェクトC2 行政分野別の市民参加手法の研究と導入・・・・・・・・

市民と行政が一体となった施策を進めるため、行政分野別にさまざまな市民参加手法の研究と導入を行います。

### プロジェクトC3 市民参加による公共サービスの仕組みづくり・・・・・・・・

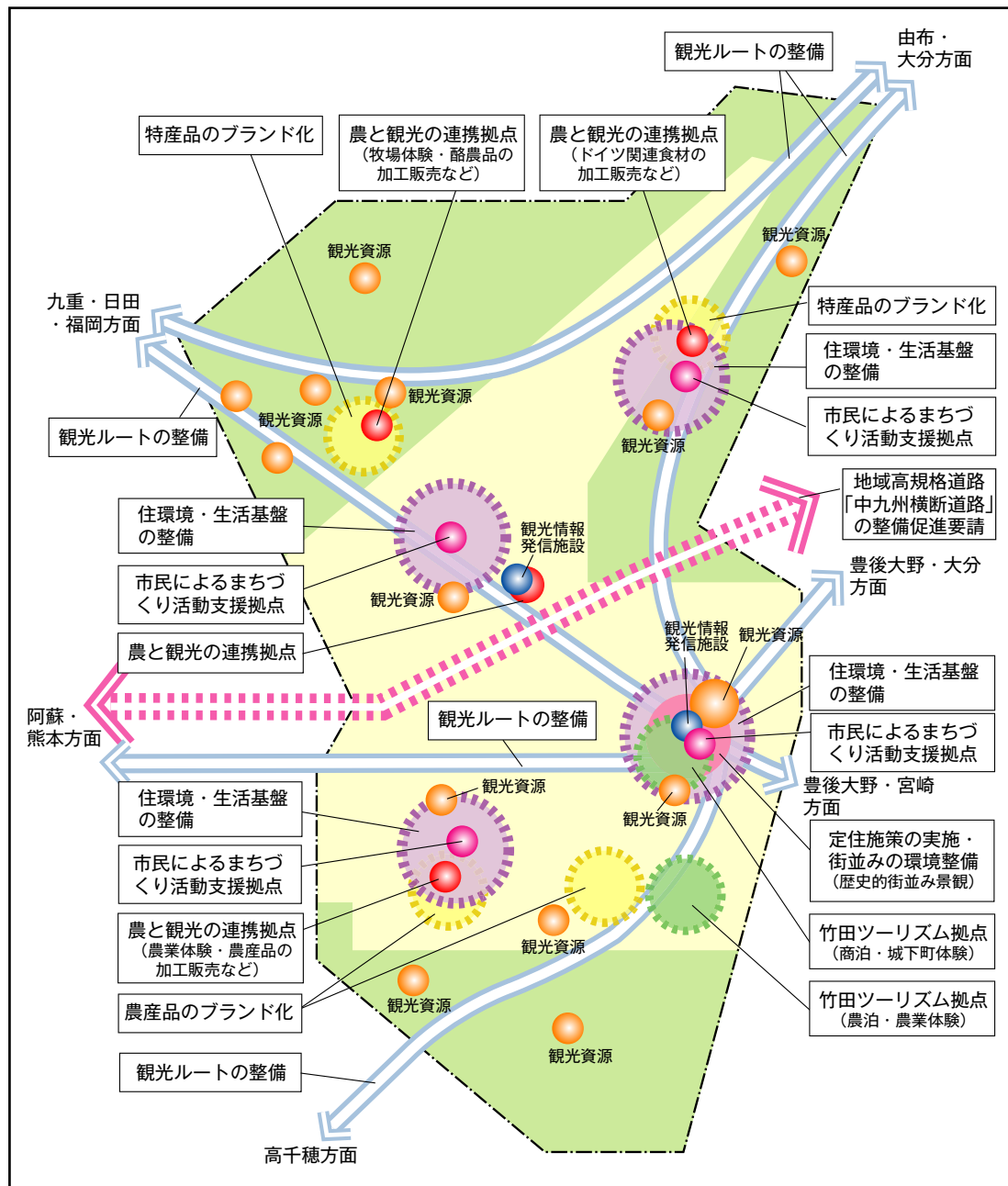
市民がまちづくりに積極的に参画することができるシステムの構築を図り、行政と市民が連携した公共サービスの仕組みづくりを進めます。

※パートナーシップ：友好的な協力関係。



### 4-3 まちづくり戦略イメージ

本市の将来像の実現を目指し、効率的・効果的にまちづくり戦略を進めていくため、まちづくり戦略イメージを次のように描きます。



■まちづくり戦略イメージ図

---

平成17年7月27日、新「竹田市」発足記念式典に於いて発表した直入中学校3年（当時）の広瀬恵太さんのまちづくりに対する意見をご紹介します。

---

## 「新竹田市に期待すること」

直入中学校3年 広瀬 恵太

今年の4月、僕の故郷である直入町は他の2町と一緒に、竹田市と合併しました。

旧竹田市はすでに、岡城や瀧廉太郎などで有名なところなんです。今回合併することにより、旧直入町の「日本一の炭酸泉」、旧久住町の「久住高原」や美しい山々の自然、旧荻町の豊かな農産物なども「竹田市」の仲間入りをしました。面積も広くなり、人口も増え、竹田市はずいぶんと大きくなりました。

竹田市には多くの自然が残されていますが、一つ心配なことがあります。それは、大きくなった竹田市を豊かに便利にするという理由で、この自然が壊されないかということです。新しい建物、新しい道路の整備は、「新しい市」には似合うでしょうが、少々の便利さと引き換えに今ある自然を壊さず、今の姿を保ってほしいと思います。

僕の家は旅館を経営しています。泊まりに来てくれるお客さんは、都会のようにいろんなものがあるわけではない直入町を好んでくれています。直入町の豊かな自然をとてとても気に入ってくれています。「自然があっていいなあ」と言ってくれるお客さんの顔を見ていると、身近にあって普段は気がつかないけれど、やはり自然は大切なものなんだと実感することができます。

この自然を守っていくために、僕たちの中学校ではこれまでもいろんな取り組みをしていました。河川の掃除や、ボランティア活動のゴミ拾いなど、今まで地域で取り組んでいたことも含めて、これからも一生懸命に僕たちにできることを考えてやっていくべきだと思っています。

また、今までは隣の町だった久住や荻と折角一緒になれたのですから、お互いの良いところを益々活かしてそれぞれが特徴のある「地域」として竹田市を盛り上げていくことも大切なことだと思います。岡藩の歴史、観光の温泉、雄大な九州アルプスから流れ出る水と素晴らしい眺め、豊かな農業、すべてが一緒に繁栄できる「竹田市」になってほしいと思います。

合併協議会の中で議論され合併後の目標として示された「自然・歴史・文化を育む名水名湯田園観光都市」竹田を僕たち市民の手によって育てていけるといいなあと思っています。